

会 議 要 旨

会議の名称	平成29年度 第2回川越市上下水道事業経営懇話会	
開催日時	平成29年10月13日(金) 10時00分開会 ・ 11時50分閉会	
開催場所	川越市上下水道局庁舎 2階会議室	
座長氏名	座長 石井 晴夫	
出席者(委員)氏名 (人数)	副座長 佐野 勝正 委員 新井 正司、町田 明美、近藤 繁樹、鈴木 美智子 計6名	
欠席者(委員)氏名 (人数)	0名	
事務局職員 職氏名	上下水道事業管理者 上下水道局長 上下水道局副局長(兼給水サービス課長) 上下水道局副局長(兼事業計画課長) 上下水道局参事(兼総務企画課長) 上下水道局参事(兼財務課長) 水道課長 下水道課長 上下水道管理センター所長 財務課副課長 事業計画課副課長 事業計画課副主幹 <事務局> 総務企画課副課長 総務企画課副主幹 総務企画課主査 総務企画課主任 総務企画課主事	福田 司 石井 隆文 円城寺 実 桑原 善行 瀬尾 幸久 近藤 正広 小林 一秀 橋本 明宏 堅木 和美 遠藤 聡 細野 健一 松田 勝 福田 英一 米山 隆 千村 英夫 高梨 義久 牧野 夏美
会議 次第	1 開会 2 議題 (1) 平成28年度川越市上下水道事業の決算について 3 その他 (1) 川越市公共下水道(防災・安全)における事後評価について 4 閉会	
配布 資料	(1) 資料1 平成28年度川越市上下水道事業の決算について (2) 資料2 平成28年度川越市上下水道事業の主な業務の状況について (3) 資料3 川越市公共下水道(防災・安全)における事後評価について (4) 平成28年度 川越市水道事業会計/公共下水道事業会計決算書	

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事 務 局	<p>1. 開会 事務局より、当日の傍聴者がいないことが報告されました。</p> <p>2. 議題 (1) 平成28年度川越市上下水道事業の決算について 資料1「平成28年度川越市上下水道事業の決算について」 説明</p>
副 座 長	<p>資本的収入の中に借入金が含まれるという考え方をもう少し説明していただけますか。</p>
事 務 局	<p>資本的収入の主要な財源に企業債がございます。水道や下水道の施設というのは何十年も使い続ける資産ですので、今使っている方だけでなく、将来使われる方にもある程度は負担いただくという考えがございます。</p>
委 員	<p>内部留保資金は貸借対照表のどの部分に書かれていますか。</p>
座 長	<p>内部留保資金のメインは減価償却費になります。本来であれば、減価償却費はそれぞれ個別の原価に対して計上しますが、どの原価を償却するための費用なのかを考えずに、支出を伴わない資金として内部留保に充てていると言えます。</p>
事 務 局	<p>内部留保資金は決算書に記載がありません。施設等の資産をつくる際は資本的収支に計上しますが、翌年以降の減価償却費は収益的収支で計上します。しかし、概念上の費用であるため現金は動きませんので、収支が均衡していればその分だけ現金が残ることになります。したがって、資本的収支の不足分にまさしく自転車操業で毎年繰り入れています。</p>
委 員	<p>当年度の内部留保資金を不足額に充てたということですか。</p>
事 務 局	<p>前の年度からの積み重ねの内部留保資金もございます。全部使ってしまうと、翌年度以降事業ができなくなる可能性がございますので、一定年度の内部留保は私どもで持っております。</p>
委 員	<p>来年度以降の不足額に充てるようなその内部留保としては、貸借対照表の資本剰余金等でしょうか。</p>

事務局	おっしゃるとおり、純利益も内部留保へ入ってまいります。
副座長	<p>収益的収支というのは、損益であり、収入と支出というのはお金の流れです。減価償却をすると費用は動きますが外部に流出せずに内部に残ります。そのお金を留保しているわけです。</p> <p>企業債などの資本的収支には、世代間負担という考えがあります。下水道や水道は、将来の人も使っていくので適正な負担を考える必要があります。一方で、内部留保資金の適正な管理が必要になります。</p>
座長	水道事業貸借対照表の利益剰余金や流動資産などが内部留保資金に性格上近いと言えます。
委員	決算書にある繰延収益とはどういうものでしょうか。
座長	平成 26 年度に公営企業会計制度が変わったことでできたものです。例えば、水道や下水道の施設を固定資産 10 億円でつくって、5 億円の補助金をもらったとします。補助金の 5 億円でつくった分についても収益化していきなさいというものです。
副座長	企業会計だと、長期前受金は固定負債になります。
委員	決算書の長期前受金戻入のことでしょうか。
座長	補助金も含めて減価償却してしまっています。
事務局	当年度純利益を見ていただくと約 4 億円ございますが、長期前受金戻入を引くとほとんど残りません。ぎりぎりの経営でございます。
副座長	そういう説明をどこかに入れた方がいいですね。
座長	川越市は損益収支方式を採っています。未だに資金収支方式を採用しているところが、水道事業体の中でもまだかなりの程度占めています。
副座長	例えば退職給付引当金などは、特別会計が全額負担している場合が多いですが、本来は期間按分するべきだと思います。
事務局	平成 28 年度から、川越市は市長部局と公営企業に在籍していた期間に応じて按分するようになりました。

副 座 長	立派ですね。まだ按分しているところは少ないですよ。
座 長	他にございますか。
委 員	貸借対照表をみると、現金としては42億円あり、比較的潤沢に回っているということでよろしいでしょうか。
座 長	決算書中のキャッシュ・フロー計算書を見ると、投資活動の部分を見れば、まさに自転車操業ですよ。
事 務 局	キャッシュ・フロー計算書を見ていただきますと、若干ですが資金は増加しております。水道事業会計も下水道事業会計も、収納率は99%程ですので、なんとか現金は回っているという状況でございます。
副 座 長	確かに現金は42億円ありますが、企業債が66億円と借金の方が多いため、実際には自転車操業といえます。
事 務 局	当初から赤字の予算を組むことはできないため、収入に不足が見込まれる場合には支出の方で、事業を削りながら調整しているのが実情です。
座 長	川越市は古くから施設が整備されているため、老朽化が進み、耐用年数を過ぎた資産が増えています。アセットマネジメントや長寿命化計画を作って御苦労はされていますが、厳しい状況だと思います。 資料の中に、合流式下水道と分流式下水道の割合はありましたか。
事 務 局	ございません。
座 長	では、次回までに用意をお願いします。 川越市の中心地は整備が早かったため、ほとんどが合流式だと思います。昨今ゲリラ豪雨などもございますので、雨水を分離して分流式下水道を整備したいところですが、市街地の道路下にはもうスペースがありません。この問題については、国土交通省が河川の下に貯留池をつくるなどの事業を推進しています。市民を守るための課題は多いと思いますが、収入に限られていますので早めに手を打たなければならないと痛切に思いました。
副 座 長	埼玉県でも、50mm以上の雨が降る回数が増えています。早めに汚水と分離するのが下水道の一つ課題なのかなと思います。

事務局	合流区域については課題になっておりまして、議会でも、集中豪雨については質問を受けております。国の制度を利用して合流改善事業というのは進めておりますが、なかなか効果が見えにくいところもございます。公園や公有地を使わせていただいて、ポイント的に少し時間調整するとか、地下浸透施設の設置に対して補助をするといった対応に留まっているのが現状でございます。
座長	新河岸川に汚水やゴミが流れないようにフィルターを設けるといふ事業があったと思いますが、進んでいますか。
事務局	ゴミを集めたり、水質汚濁を低いレベルにするということで、合流改善事業を進めた結果、現在は基準値を達成しています。詳細につきましてはまた次回説明させていただきます。
座長	他にございますか。
副座長	公共下水道を整備している地域の中で、接続していない人への対策はしていますか。下水道使用料等の収入確保につながるはずですが。
座長	公共下水道に接続していない人の割合は何%ぐらいでしょうか。
事務局	課題としては捉えています。局内で、実態を調査する必要があると話しています。
副座長	住民の意思ではなく業者の手抜き工事で、「公共下水道につながっていると思ったら裏の川に流れていた」という話もあると聞きます。そういった業者の実態もつかんでいただきたい。
座長	工事後の確認検査というのは局でやっていますか。
事務局	家などが新築された際には、確認申請をいただき、現地確認をしております。
事務局	<p>3. その他</p> <p>(1)「川越市公共下水道（防災・安全）における事後評価について」</p> <p>資料3「川越市公共下水道（防災・安全）における事後評価について」説明</p> <p>(補足)</p> <p>社会資本整備総合交付金の交付要綱の中で、工事完了後は</p>

	<p>事後評価を実施し、学識経験者などの第三者の意見を求めるようにとされているため、第3回経営懇話会に挙げさせていただき次第です。今回はそのための事前説明となっております。</p>
座 長	<p>次回、また詳細に御説明いただけるということですが、この件について何かございますか。</p>
副 座 長	<p>「長寿命化計画における管きよ更生実施率」と「下水道による都市浸水対策達成率」というのは管きよが強化されているのですが、「合流式下水道改善率」というのは、効果などがよく見えてきませんね。</p>
事 務 局	<p>合流式下水道を採用している都市に対して、平成15年に10年間での改善義務が課せられ、川越市では合流区域827haについて、平成17年度に計画策定、平成18年度に事業着手、平成25年度で事業を完了しております。</p> <p>計画の中には、未処理放流水の回数の半減、夾雑物（ゴミなど）の流出防止といった指標がございました。事業完了時には、シミュレーションにおいて計画値の達成を確認しております。</p>
副 座 長	<p>次回、合流改善事業のあらましと、今度の事業に課題として残っているのであれば、その点についても御説明いただきたい。</p>
座 長	<p>改善率は面積比で見るので、ろ過スクリーンなどの部分的な改善であっても、827ha全てが改善されているように見えることには違和感があります。他団体でも同じようなことを指摘されているところがありますので、もう少し勉強して、効果が見える形にしていきたい。そのために国は事業評価というものを入れましたから。</p> <p>副座長のおっしゃった今後の課題というのが非常に重要ですから、ぜひそこを明らかにして事業を進めていただきたい。次回懇話会までに、資料を作ってください説明をお願いしたいと思います。</p> <p>事後評価に関しましては次回に向けて進めていただきたいと思っております。</p> <p>事務局からその他ございますか。</p>
事 務 局	<p>次回第3回の懇話会につきましては、11月17日午前10時より、本日と同じくこちらの上下水道局2階会議室での開催を予定しております。</p> <p>内容といたしましては、来年度以降に策定を予定しております上下水道事業の各種計画について、また、本日、一部ご</p>

<p>副 座 長</p>	<p>説明申し上げました川越市公共下水道（防災・安全）における事後評価について、御意見をいただく予定です。 また、会議は原則公開とさせていただく予定です。よろしくをお願いします。</p> <p>4. 閉会 【副座長挨拶】</p>
--------------	--